



熊本みんなの家 (本格型)

Home-For-All for
Temporary Housing in
KUMAMOTO

平成28年熊本地震では
『みんなの家』がある応急仮設住宅』の整備が
「ゆとり」と「あたたかさ」と「ふれあい」を
キーワードにすすめられた。
東日本大震災や熊本広域大水害(平成24年)で
建設された「みんなの家」の経験を活かし、
『規格型』と呼ぶ「みんなの家」を計画した。
これに加え、80戸以上の大規模な仮設団地では
利用者との意見交換を重ねてつくる
『本格型』の「みんなの家」を整備した。
九州の学生らで組織された
KASEIプロジェクトと協力し、
工事中の棟上げ・完成式を
利用者とともにお祝いするなど
「みんなの家」をつくる過程から

コミュニティを形成し、
『被災者の痛みの最小化』を図っている。

くまもと
アートポリス
KUMAMOTO
ART POLIS



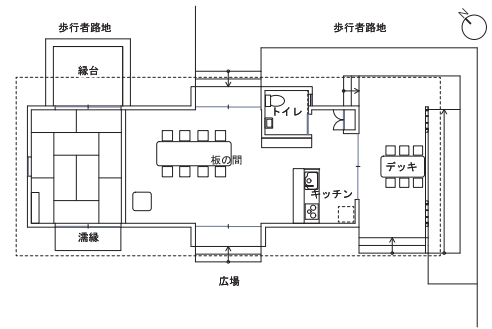
甲佐町白旗のみんなの家(集会所)



「みんなの家」は集会所ではあるが、それが普段使いの共用の居間となることで、仮設住宅での生活のストレスを和らげ、団地全体のコミュニティを紡ぎ出だす場となることを意図している。

町営グラウンドに設けられた白旗仮設団地の住棟配置は真北に対しほぼ45度振れていて、平行に並んだ住棟のタテ系に直交して団地内通路や歩行者通路といった共用動線のヨコ系が編み込まれている。「みんなの家」の敷地は団地のほぼ中央の広場に位置している。

ヨコ系である共用動線の軸線と平行に長く屋根を架け、「みんなの家」を前後の広場と歩行者通路に挟まれた場所とすることで、より立ち寄りやすくなるように計画した。細長いプランは同時に様々な活動を内包することができる。

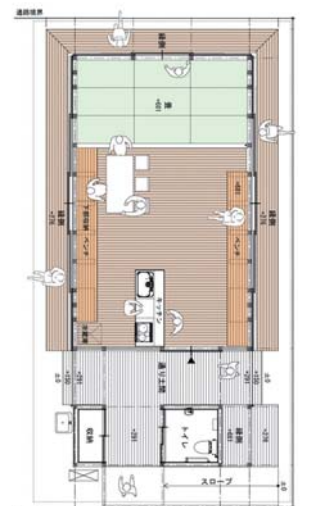


西原村小森第2のみんなの家(集会所)



日本建築家協会九州支部熊本地域会が推薦した地元建築家ユニット『kulos』が設計を担当した。建築家のやるべきことを限定するため屋根は切妻と割り切ることで、被災者に寄り添った設計を進めた。住民との意見交換会では、縁側のある風景を写真で紹介し、暮らしの風景を共有しながら建築のカチにした。壁のないスタディ模型を示しながら意見交換を始めると、利用者の開放性への理解が高く、「鍵をかけなくてもいい、いつでも使えるみんなの家がよい」という意見でまとまった。

住民とともにつくった「みんなの家」は大切に使われ、復興後の移築の話まで出ている。地元建築家だからできるサポートをこれからも続けていきたい。

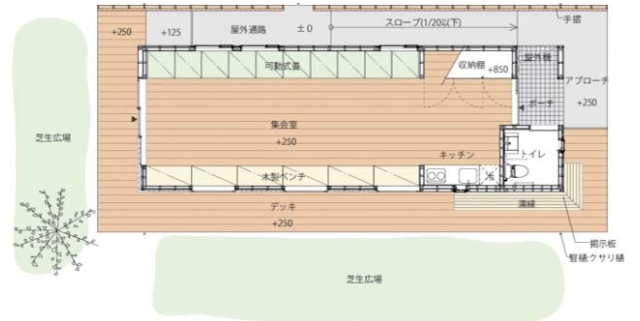


西原村小森第3のみんなの家(集会所)



「誰でも気軽に立ち寄れるようにしたい」などの利用者の意見を踏まえ、土足のまま入れる全面板土間案を採用した。可動式の置き畳やテーブルなどの家具で自由なレイアウトを可能にしたことで、普段使いだけでなくイベントや展示会場など、さまざまな形で利用されている。

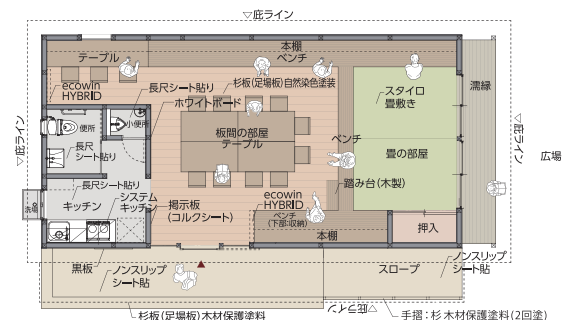
トイレは、隣接する店舗との動線も考慮して、まわりの目を気にせず使うことができるよう外部から利用できるようにした。外部には木製のデッキと芝生が配置され、春には桜の下で子供たちが遊ぶ姿を眺めることができるだろう。



西原村小森第4のみんなの家(集会所)



不要になった本を募り、運営方法や本のレイアウトの検討など住民の方々と一緒に考えながら、“みんな”が集える「本の家」をつくりあげることができた。今回の計画では三つの基本方針のもとに、ワークショップで要望や意見を取り入れながら設計した。一つ目は、みんなが利用できるよう、様々な目的や立場の人が一つの空間を共有できる場とすること。二つ目は、断面寸法を抑え、災害時に材料が容易に確保できる杉の流通材で架構をすることで、次なる規格型へのケーススタディとして汎用性があり今後も活用できるデザインとすること。三つ目は、屋根・壁材・床材・天井材等の全てを乾式工法で構成し、再利用できる素材・工法とすることで、仮設としての役割を終えた後に移設などで再利用が可能な計画とすることである。



南阿蘇村陽ノ丘のみんなの家(集会所)



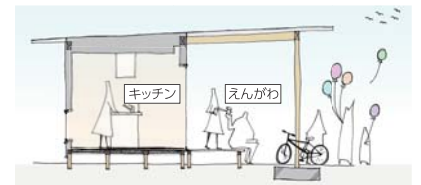
PHOTO/針金洋介

意見交換会は、住民が積極的に笑いが絶えなかった。ワークショップのなかで何度も話題となった「食べる」という単純な行為に仮設コミュニティの可能性を委ねた。

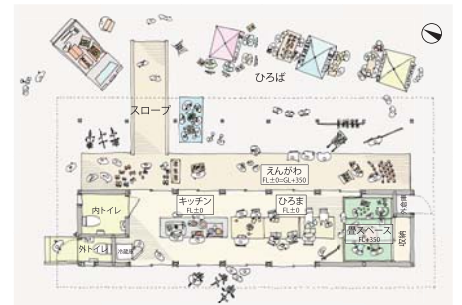
かつてこの地域で行っていた料理教室を今だからこそ復活させたいと聞き、「大きなキッチン」を中心に据えた。また、みんなが集い食事でもできる「大きな縁側」をつかった。縁側は雨が降っても鍵がなくてもいつでも自由に使い、子供たちの遊び場や小さな子供と狭い家で塞ぎ込んでしまうというお母さんたちの居場所としても活躍している。

大きなキッチンを囲み、ご飯を作り、広い縁側で食べる。

単純な行為に支えられた普段使いの「みんなの家」となった。



PHOTO/大森今日子



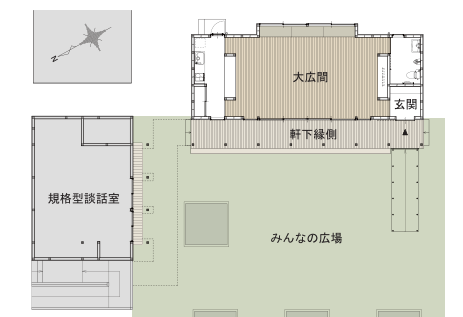
益城町木山のみんなの家(集会所A)



敷地は既に3棟の「みんなの家」が整備され、そのうちの規格型「みんなの家」(談話室)と隣接する特殊な条件であった。

意見交換会ではみんなが集まって大きく使える場所がほしいという意見が占め、震災前まで使っていた公民館(木山座)の大広間のような空間が求められた。そこで建物の両端に設備を配置し、中央部を大きなワンルーム空間とした。また、木架構は、すべて105mm角のスギの単一部材により構成し、ローコスト化を図っている。

建物は規格型談話室とL型に広場を囲むように配置し、広場に面して大きな掃き出しの開口を設け、下屋空間、広場と連続した繋がりをつかった。広場には道路側に入居者と協働でつくった花壇を置き、子供たちが安心して遊べる場所となっている。



益城町小池島田のみんなの家(集会所)

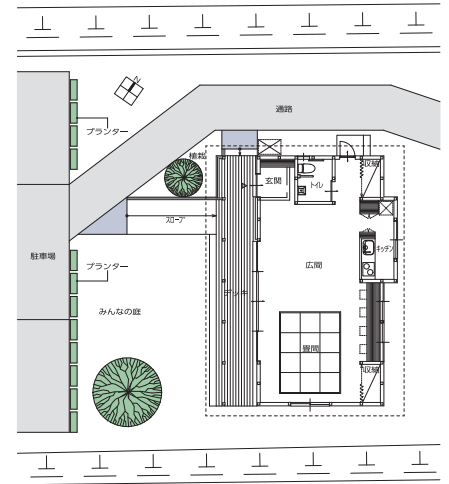


「みんなの家」の計画にあたり、住まいを失った方々のために「みんなの我が家(家庭)」と捉えることから始めた。

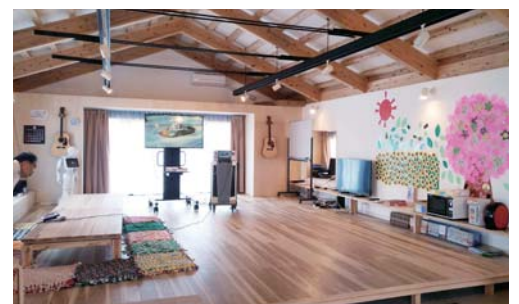
ワークショップで出た意見をもとに、「みんなのリビング」として気兼ねなく集まれるよう、軒下に広いデッキを設け、アクセスを容易にした。

内部はイベントなどで使いやすい大広間としている。また、日々を過ごす「家」には安らぎを与える緑の「庭」が必要ではないかと考え、景色のよい西側に大開口を設けて数本の木を植え、日常の暮らしのなかにわずかでも潤いをもたらすことができればと考えた。

西日を遮り「みんなの家」にやさしい木漏れ日を落とす木々が、新緑の季節には力強く芽吹き、住民の方々に活力を与えることを願っている。



益城町テクノのみんなの家(集会所B2)



益城町テクノ仮設団地(516戸)は県内最大規模の仮設団地である。

この「みんなの家」は団地中央に位置し、住民の見守りなどを行う「地域支え合いセンター」の拠点としての役割も担っている。

平面プランは集会スペースと地域支え合いセンターの事務スペースで構成され、テラスを介し向い合せの配置とすることで、内部の活動が外へにじみ出て交流を生み出すきっかけとなっている。大きな桜の木があるテラスは、互いに見ず知らずの入居者が入りやすいよう団地内の小路とつないだ。

仕上げや設えは住民にアンケートをとり意見を反映した。KASEIと協働で家具や花壇などのデザインや制作をし、また、子供が遊べる小さな芝の築山や砂場などの庭づくりを行い、入居者の方に喜ばれている。



■ 甲佐町白旗のみんなの家(集会所)



● 建築家プロフィール

渡瀬 正記(わたせ まさのり)

1968年静岡県生まれ/1992年東京工業大学建築学科卒業/現在、設計室主宰

永吉 歩(ながよし あゆみ)

1975年大阪府生まれ/1998年東京デザイナー学院卒業/現在、設計室

● 建築データ

所在地/上益城郡甲佐町

主要用途/集会所

事業主体/熊本県

設計者/渡瀬正記+永吉歩/設計室

施工者/千里殖産株式会社

建築面積/80.58㎡

延べ面積/75.84㎡

階数/地上1階

構造/木造

完成時期/2016年10月

協力者/KASEIプロジェクト、稲葉裕/フォーライツ(照明)

■ 西原村小森第2のみんなの家(集会所)



● 建築家プロフィール

大谷 一翔(おおたに いっしょう)

1985年鹿児島県生まれ/2007年崇城大学工学部建築学科卒業/現在、大谷一翔建築設計事務所代表

柿内 毅(かきうち たけし)

1972年熊本県生まれ/1996年熊本工業大学建築学科卒業/現在、トボスペース建築研究所代表

堺 武治(さかい たけはる)

1968年熊本県生まれ/1992年職業訓練大専科建築科卒業/現在、堺武治建築事務所代表

坂本 達哉(さかもと たつや)

1972年熊本県生まれ/1994年熊本工業大学建築学科卒業/現在、坂本達哉建築設計事務所代表

佐藤 健治(さとう けんじ)

1974年熊本県生まれ/1993年熊本YMCA学院建築学科卒業/現在、SPACE LAB一級建築士事務所代表

長野 聖二(ながの せいじ)

1971年大分県生まれ/1996年熊本大学建築学科卒業/現在、長野聖二建築設計處代表取締役

原田 展幸(はらだ のぶゆき)

1973年熊本県生まれ/1996年熊本工業大学建築学科卒業/現在、ライフジャム一級建築士事務所代表取締役、kulos代表

深水 智章(ふかみず ともあき)

1977年熊本県生まれ/1999年熊本工業大学工学部建築学科卒業/現在、深水建築設計事務所代表

藤本 美由紀(ふじもと みゆき)

1973年熊本県生まれ/1998年熊本大学大学院工学研究科建築学専攻修了/現在、フジモトミユキ設計室代表

山下 陽子(やました ようこ)

1974年山口県生まれ/1995年国立有明工業高等専門学校建築学科卒業/現在、株式会社u.hアーキテクト代表取締役

黒岩 裕樹(くろいわ ゆうき)

1980年熊本県生まれ/2013年熊本大学大学院自然科学研究科環境共生工学専攻博士後期課程修了/現在、黒岩構造設計事務所代表取締役

● 建築データ

所在地/阿蘇郡西原村

主要用途/集会所

事業主体/熊本県

設計者/大谷一翔+柿内毅+堺武治+坂本達哉+佐藤健治+長野聖二+原田展幸+深水智章+藤本美由紀+山下陽子/kulos+黒岩裕樹

施工者/株式会社かずやハウジング

建築面積/79.14㎡

延べ面積/54.65㎡

階数/地上1階

構造/木造

完成時期/2016年12月

協力者/木村設備設計事務所、KASEIプロジェクト、資材提供/遠藤照明(照明)、旭電業(空調機器)、出田実業(ガラス)、オスモ&エーデル(塗料)、TOTO九州販売(衛生機器)、タニタハウジングウェア(種)

■ 西原村小森第3のみんなの家(集会所)



● 建築家プロフィール

山室 昌敬(やまむろ まさたか)

1971年熊本県生まれ/1995年熊本工業大学建築学科卒業/現在、セルアーキテクト代表取締役

松本 義勝(まつもと よしかつ)

1981年熊本県生まれ/2004年東海大学建築学科卒業/現在、マック代表取締役

梅原 誠哉(うめはら せいや)

1988年ミャンマー生まれ/2011年東海大学産業工学部建築学科卒業/2011~16年マック設計部

佐竹 剛(さたけ 剛)

1978年熊本県生まれ/2003年熊本大学大学院自然科学研究科建築学専攻修了/現在、遊建築設計事務所

河野 志保(かわの しほ)

1990年熊本県生まれ/2016年熊本大学大学院自然科学研究科博士前期課程修了/現在、遊建築設計事務所

本 幸世(もと さよ)

1991年熊本県生まれ/2016年熊本大学大学院自然科学研究科博士前期課程修了/現在、セルアーキテクト

谷口 規子(たにくち のりこ)

1976年熊本県生まれ/2000年豊橋技術科学大学大学院工学研究科修士課程修了/現在、ビルド総合設計 代表取締役

山田 大介(やまだ だいすけ)

1982年熊本県生まれ/2015年熊本YMCA学院建築学科卒業/現在、株式会社グリーン設計勤務

● 建築データ

所在地/阿蘇郡西原村

主要用途/集会所

事業主体/熊本県

設計者/山室昌敬+松本義勝+梅原誠哉+佐竹剛+河野志保+本幸世+谷口規子

施工者/株式会社グリーン住宅

建築面積/77.03㎡

延べ面積/56.92㎡

階数/地上1階

構造/木造

完成時期/2016年12月

協力者/KASEIプロジェクト、資材提供/東芝ライテック(照明器具)、古荘本店(照明器具)、空研工業(ルームエアコン、室外機設置架台)

■ 西原村小森第4のみんなの家(集会所)



● 建築家プロフィール

甲斐 健一(かい けんいち)

1975年熊本県生まれ/1998年長崎大学構造工学科卒業/現在、甲斐構造設計事務所代表

田中 章友(たなか あきとも)

1979年熊本県生まれ/2003年崇城大学大学院建設システム開発工学専攻修士課程修了/現在、産絨設計

丹伊田 量(にいだりょう)

1981年熊本県生まれ/琉球大学工学部環境建設工学科卒業/現在、ロゴス設計同人

志垣 孝行(しがき たかゆき)

1984年熊本県生まれ/2011年熊本大学自然科学研究科博士前期課程卒業/現在、志垣デザイン店

木村 秀逸(きむら しゅういち)

1975年熊本県生まれ/1998年熊本学園大学卒業/現在、(有)木村設備設計事務所取締役部長

● 建築データ

所在地/阿蘇郡西原村

主要用途/集会所

事業主体/熊本県

設計者/甲斐健一+田中章友+丹伊田量+志垣孝行+木村秀逸

施工者/株式会社丸山住宅

建築面積/67.07㎡

延べ面積/59.62㎡

階数/地上1階

構造/木造

完成時期/2016年12月

協力者/KASEIプロジェクト、昭和女子大学杉浦研究室(家具デザイン・施工、本の収集・ワークショップ)、熊本県立熊本工業高等学校インテリア科(椅子)

■ 南阿蘇村陽ノ丘のみんなの家(集会所)



● 建築家プロフィール

古森 弘一(ふるもり こういち)

1972年福岡県生まれ/1998年明治大学理工学研究科博

士前期課程修了／現在、古森弘一建築設計事務所代表

●建築データ

所在地／阿蘇郡南阿蘇村

主要用途／集会所

事業主体／熊本県

設計者／古森弘一／古森弘一建築設計事務所

施工者／株式会社エバーフィールド

建築面積／67㎡

延べ面積／34㎡

階数／地上1階

構造／木造

完成時期／2016年12月

協力者／木村設備設計事務所、KASEIプロジェクト、株式会社遠藤照明(照明)、旭電業株式会社(空調機器)、出田実業株式会社(ガラス)、オスモ&エーデル株式会社(塗料)、TOTO九州販売株式会社(衛生機器)、株式会社タニタハウジングウェア(樋)

■益城町木山のみんなの家(集会所A)



●建築家プロフィール

内田 文雄(うちだ ふみお)

1952年熊本県生まれ／1977年早稲田大学大学院修了／現在、山口大学大学院教授、龍環境計画主宰

西山 英夫(にしやま ひでお)

1959年熊本県生まれ／1982年熊本工業大学卒業／現在、西山英夫建築環境研究所代表

●建築データ

所在地／上益城郡益城町

主要用途／集会所

事業主体／熊本県

設計者／内田文雄／龍環境計画＋西山英夫／西山英夫建築環境研究所

施工者／圓佛産業株式会社

建築面積／77㎡

延べ面積／61㎡

階数／地上1階

構造／木造

完成時期／2016年12月

協力者／KASEIプロジェクト

■益城町小池島田のみんなの家(集会所)



●建築家プロフィール

森 繁(もり しげる)

1953年熊本県生まれ／1976年滋賀県立短期大学卒業／1996年森 繁・建築研究所

●建築データ

所在地／上益城郡益城町

主要用途／集会所

事業主体／熊本県

設計者／森繁／森繁・建築研究所

施工者／株式会社五瀬建築工房

建築面積／78.72㎡

延べ面積／61.80㎡

階数／地上1階

構造／木造

完成時期／2016年12月

協力者／KASEIプロジェクト、森繁(樹木提供)

■益城町テクノのみんなの家(集会所B2)



●建築家プロフィール

岡野 道子(おかの みちこ)

1979年埼玉県生まれ／2005年東京大学大学院工学系研究科博士課程中途退学／現在、芝浦工業大学特任准教授、株式会社岡野道子建築設計事務所代表

●建築データ

所在地／上益城郡益城町

主要用途／集会所

事業主体／熊本県

設計者／岡野道子／岡野道子建築設計事務所

施工者／株式会社エバーフィールド

建築面積／132㎡

延べ面積／95㎡

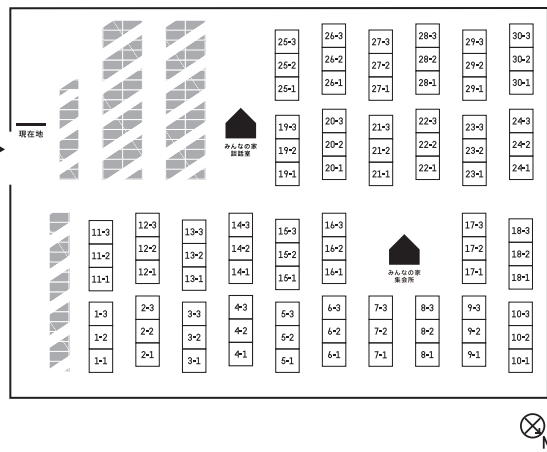
階数／地上1階

構造／木造

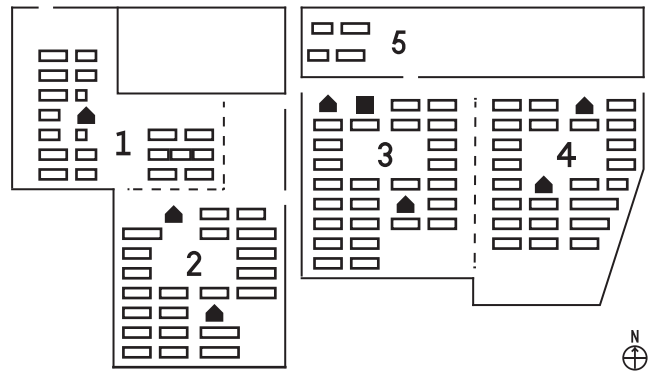
完成時期／2016年12月

協力者／大光電機(地域支え合いセンター・テラス部分)(資金協力)、熊本県多良木町・北海道南幌町・南幌町建設業協会(木材)、LIXIL(アルミサッシ、衛生器具、キッチン)、大光電機(照明)、太陽工業(シースルー太陽光パネル)、元旦ビューティ(屋根材)、タニタハウジングウェア(雨樋)、田島ルーフィング(屋根防水材)、KASEIプロジェクト(家具・サインデザイン協力・製作)、安東陽子デザイン(カーテンデザイン)

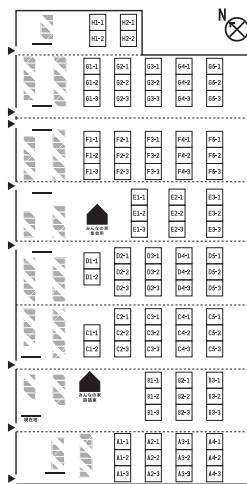
甲佐町白旗仮設団地



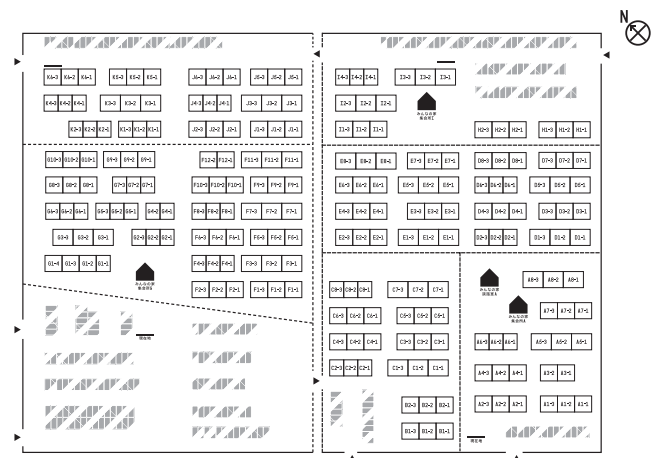
西原村小森仮設団地



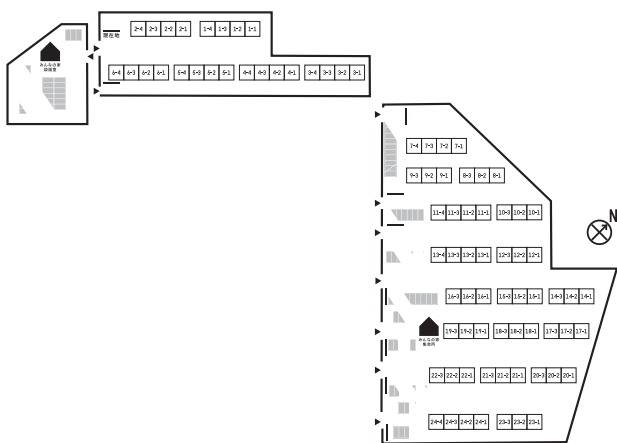
南阿蘇村陽ノ丘仮設団地



益城町木山仮設団地



益城町小池島田仮設団地



益城町テクノ仮設団地

